

令和元年度 第1回社会教育委員会議概要

- 1 日 時：令和元年5月30日（木）10：00～12：00
- 2 会 場：小田原市生涯学習センター本館（けやき） 第2会議室
- 3 委 員：木村議長、笹井副議長、有賀委員、岩瀬委員、倉澤委員、齊藤委員、高須委員、高橋委員、田中委員、深野委員、眞壁委員、益田委員
- 4 職 員：安藤文化部長、遠藤文化部副部長、石川文化部副部長、山口文化部管理監、樋口生涯学習課長、湯浅生涯学習副課長、高橋文化財課長、古矢図書館長、澤地スポーツ課長、北村子ども青少年部長、中津川子ども青少年部副部長、吉野青少年課長
(事務局) 石井生涯学習係長、相澤主査

5 傍聴者：なし

6 概 要

1 委嘱状交付

安藤文化部長から委員に委嘱状を交付した。

2 文化部長挨拶

安藤文化部長が挨拶をした。

3 職員紹介

資料1に沿って職員が自己紹介をした。

4 報告事項（1）附属機関への委員の推薦について

資料2に沿って生涯学習課長が説明をし、了承を得た。

報告事項（2）令和元年度主要な社会教育事業の結果及び予定について

資料3に沿って順次各所管課長から報告をした。

【深野委員】 おだわら市民学校について、昨年度は50名参加したということだが、脱落者は出なかったのか。なかなかハードな授業スケジュールであったと思うので、お聞きする。

【生涯学習課長】 昨年度は55名入校し、2年目に進んだ方が45名である。中には高校生もあり、脱落というよりは、進学の不都合や家族の介護の不都合などで10名の方は進学されなかったというところである。

【深野委員】 では、ほぼ目的通りにそのまま進学できたということか。

【生涯学習課長】 そうである。

協議事項（１）社会教育関係団体への補助金について

資料４に沿って生涯学習課長から説明をした。

- 【深野委員】 資料に、穴部公民館は木造平屋建てと書いてある。地区公民館は震災時に避難所になる場所なので、耐震についての配慮もされていると思うが、いかがか。本当は鉄筋造りがよいのだろうが、木造平屋建てで大丈夫なのか。
- 【生涯学習課長】 建築基準法の新耐震基準に則って許可を取っている。また現在の穴部公民館自体が、古いとはいえすでに耐震補強をしており、かなり防災には配慮した使い方をしている地区である。その中で、新たに建てるものについても、耐震について配慮されているであろうと、生涯学習課としては捉えている。費用的なことを申し上げると、この補助金の補助率は $3/5$ である。費用の $2/5$ は地元が負担するというので、決して安い金額ではない。地域としても手を挙げ難いメニューではあるが、費用の面を考慮しながら最大限防災面に配慮した建物であると、我々としては理解している。
- 【深野委員】 自分の住んでいる地域の地区公民館はボロボロで、避難しづらいので、新しい地区公民館は是非しっかり作っていただきたいと思う。
- 【木村議長】 この補助金については、県で３件しかもらえないため、毎回小田原市がもらえるかというところ、もらえないのだが、ここのところうまくもらえている。
- 【深野委員】 自治会で３、５００万円も貯めるのはすごいことだと思う。
- 【木村議長】 相当前から貯めている。どうしても手持ちのお金がないと地区公民館を建てられないので、それを貯めているか貯めていないかが重要になってくる。これから貯めるのは大変である。
- 【笹井副議長】 自治総合センターを所管しているのは、市か。もしくは、国や県か。
- 【生涯学習課長】 事業の内容、理事の前職等を見ると、総務省系の外郭団体と思われる。補助金の流れとしては、神奈川県が市町村に対する助成メニューを持っており、県内で３件という枠で全市町村に対し募集をする。それを県内で３件に絞り込み、自治総合センターに提出する仕組みである。
- 【笹井副議長】 この事業については、費用の $2/5$ は自治会が負担するということだが、自治会はそんなにお金を持っているものなのか。
- 【木村議長】 地区公民館が古くなると困るので、貯めている自治会は前から貯めている。ただ、最近物価がどんどん上がっているので、いざ申請する時にはお金が足りなくなり、では貯まるまでまた少し待とうというところ、建設がどんどんずれ込んでくる。建設費用は積み立てなので、お年寄りはお金だけ払って完成を見ないうちにお亡くなりになるのが自治会としてもきつところである。
- 【益田委員】 先ほど、小田原市が県内で３件の補助をここ最近よく取れているという話があったが、何かよい条件、理由があつてのことなのか。
- 【生涯学習課長】 理由については、詳細はわからないというのが正直なところであるが、補助金

を取る要件としては主に三つある。一つは、必ず登記をする必要があるので、自治会が法人格を持つこと。二つ目は、申請が自治会の総意であるという自治会の議事録等の提示である。最後は、財源が確保されている証明として、例えば貯金通帳の写しの提示。この三つは必須条件になっている。補助率は事業費の3/5なので、おそらく、自治会で残り2/5のお金を用意できるかというお金のハードルではないかと思う。次年度以降、建て替えを考えているという相談はすでに5・6件受けているが、お金の面でのハードルを越えられるかというところで、実際にエントリーできる自治会は限られてくる。最近の実績としては、3年前の平成29年度に北ノ窪公民館、23年度に穴部新田公民館がある。申請を出せば今のところ補助金を取れている状態ではあるが、その前に、自治会の方でなかなか手を挙げづらいという実態の中で、件数としてはあまり出てきていないのではないかと考えている。

協議事項（2）神奈川県社会教育委員連絡協議会地区研究会について
資料5に沿って生涯学習課長から説明をした。

【木村議長】 司会進行は益田委員、閉会の言葉は深野委員がよいと思うがいかがか。

（益田委員、深野委員に了承を得た）

（閉会の言葉については木村議長にいただくことで了承を得た）

【木村議長】 アトラクションについて、何かあるか。

【深野委員】 小田原民俗芸能保存協会の後継者育成発表会は何度も見たことがある。後継者育成なので、どの出し物も子どもがでてくるが、平日の昼間というのは非常に厳しい条件であると思う。相模人形芝居もよいと思うが、今回の地区研究会のアトラクションとしては、長すぎて難しい。そう考えて行くと、寿獅子舞しか残らないのではないか。寿獅子舞自体は、明るく楽しい舞なので、地区研究会にぴったりだと思う。小田原は明るくていいところだという印象を持ってもらえるのではないか。

【木村議長】 小田原提灯踊りという案もあるが、今回は会場の舞台が狭いので、獅子舞の方がよいと思う。県からいただく予算の中で寿獅子舞に対して謝礼も支払えるので、みなさんの方でもよいということであれば、ここでアトラクションを決定したいが、いかがか。

（全員賛成）

【木村議長】 それでは、アトラクションは寿獅子舞で進めさせていただく。

【生涯学習課長】 寿獅子舞保存会とはこれから具体的な交渉に入るため、万が一折り合いがつか

かなかった場合のために、もう一つ候補があると安心なのだが。

【木村議長】 他の団体は子どもが演者として入ってくるので、平日は難しいと思う。そうすると小田原提灯踊りかなと思うが。

【生涯学習課長】 折り合いがつかなかった場合には、また議長と相談させていただくということでもよろしければ、個別に進めたいと思う。

【木村議長】 では、本命は寿獅子舞として、後は課長と私にらせていただいてよろしいか。

(異議なし)

【深野委員】 小田原らしいアトラクションというと、外郎売りの口上という案もある。口上だけであれば、10分から15分で終わり、いかにも小田原らしいという感じもする。寿獅子舞の都合がつかなかったら、次の候補として考えてもよいのかなと思う。

【岩瀬委員】 子どもが外郎売りの口上を習っている。大人だけの会と子どもの会に分かれており、10分でとこちらから指定すれば10分で演じてくれると思う。

【木村議長】 第二、第三候補については、私と生涯学習課長にらせていただくということでもよろしいか。

(異議なし)

【木村議長】 研究テーマについては、現在、仮として設定してあるが、これについてはいかがか。

【有賀委員】 もう少し具体的に内容をイメージできるように、できればサブタイトルを付けていただけるとありがたい。

【生涯学習課長】 今回の発表の中で意識していることは、あくまでも小田原としての地域資源を活用しながらの人づくりまちづくりであるということ。今綺麗なタイトルとしてはすぐに思いつかないが、地域資源を活かした人づくりまちづくりというものをサブタイトルとして打ち出して行けばよいのではないかと考える。

【有賀委員】 例えば「小田原市の放課後子ども教室とおだわら市民学校の取組を通して」など、具体的に伝えてもらえると、小田原市はこういう発表があるのだなとわかる。「資源を活かした」だと少し具体的なイメージに欠けると感じる。

【生涯学習課長】 先ほどの説明で言うと、例えば有賀委員が子どもの学び、齊藤委員は大人の学びと、そういう言葉をサブタイトルに入れるということか。

【有賀委員】 参加者はまず次第のテーマを見るので、小田原市は何をやるのかなと具体的にわかりやすいサブタイトルがあるとありがたい。

【生涯学習課長】 発表者3人の方が腑に落ちるところを見つけて次回の会議でお示ししたい。

発表者の方々と事務局で別途調整させていただきたい。

- 【笹井副議長】** 今の時点で私が講演について考えていることをお伝えする。社会教育には講座や学級というような形と、地区公民館でみんながわいわい集まってお互いに学び合うような形と、大きく2種類の形がある。小田原は文化のまちであり、アトラクションも小田原の民俗芸能の中から選ぼうとしている。そう考えて行くと、今回の講演では、むしろ後者の、みんなが集まって文化を伝承し、みんながネットワークを作る中でそれぞれが人材育成していくということが大事ですよという主旨で話をしたい。学校家庭地域の連携のように、横に繋がって大人も子どもも学ぶということも大事だし、キャンパスおだわらの行政講座のようにしっかりした知識を学ぶことも大事なのですよという風に持っていきたいと思っている。そのような主旨を踏まえて、事務局で案を考えていただければと思う。
- 【生涯学習課長】** そういう視点で考えたいと思う。次回会議は8月下旬を予定しているので、そこでみなさんに案をお示しし、了解をいただければ、9月の県への報告に間に合う。
- 【木村議長】** 8月の会議でみなさんが賛成できるような案を作っておいていただければと思う。
- 【齊藤委員】** 資料の地区研究会の目的について読むと、「社会教育の今日的課題について研究協議・情報交換をする」と書かれている。他市町村から参加される方は受け身になりがちで、小田原の取り組みをいろいろ見たり聞いたりアトラクションを楽しんだりということは、お客さんとしてはありだと思うが、この趣旨にある「協議」「情報交換」については、どこの部分に介入させるのかということがある。スケジュール案を見ると、受付してから開演まで少し時間があり、また舞台転換の時間、休憩時間、質疑応答の時間がある。その部分で少し仕掛けを作り、小田原の課題を知ること自分たちのまちに持ち帰って、こういう風にしようという士気を高めてもらうことが大事。そのように、つなぎになるところにみなさんのアイデアが出されるとよいと思う。
- 【生涯学習係長】** 昨年度、茅ヶ崎市と伊勢原市の地区研究会に参加した。当日は開催地の社会教育委員は、開催地としての対応があるので、ステージ上や受付に張り付き、質疑応答で会場から意見をいただき、その場で開催市の委員が答えるというのが両市に共通した流れであった。小田原市でもこのような形で実施したらどうかというご提案で資料を作成した。
- 【齊藤委員】** では、開催目的を介入させる場所の認識としては、最後の10分でよいということか。
- 【生涯学習係長】** 昨年度にみた2か所はそのような形でやっていた。
- 【生涯学習課長】** 今生涯学習センターけやきの正面におだわら市民学校の受講生募集や、各分野のフィールドワーク等を紹介したパネルがある。情報交換についてである

が、例えば有賀委員の発表のことやおだわら市民学校のことを会場のどこかブースの中で、休憩時間等に見てもらおう。例えばおだわら市民学校のところには我々が居て、そこで質問を受け付けることもできる。齊藤委員のご意見を聞いて、そのような会場の活用のしかたもあるかと思った。そのようなしつらえの中で、情報提供、情報交換ができる機会を作ってもよいと思うが。

【深野委員】 私も同意見である。他市の地区研究会に行くと、そのまちの観光宣伝がすごく多い。ロビーにも観光パンフレットが並んでいるが、観光案内よりむしろ、先ほどおっしゃったようにブースを作っているいろいろな活動を紹介する場面があると非常によいと思う。講演とも連動していく。

【木村議長】 小田原はこういうことをやっているのだというものがブースに置いてあり、それを見ながら、参加した委員のみなさんが考えてもらえるような方法もいいのではないかと思う。質疑応答については、事例発表をする3人が舞台にいて、そこで行うのか。

【生涯学習課係長】 昨年の地区研究会の様子でお話しすると、両市ともステージ上に社会教育委員が並んで、会場から質問の手が上がれば答えられる委員が答えていくという形であった。主に発表に関することだったので、発表者が中心になって答えていた。

【木村議長】 発表をする3人が舞台に上がり、質問に答えてもらうという形がよいと思うが。

【生涯学習課長】 今回はおだわら市民学校等行政に対する質問もありそうなので、行政側も一緒に答える。

【木村議長】 では舞台には発表者の3人に残ってもらい、行政もサポートするという形にしたいと思う。

【齊藤委員】 一人行政職員が入っていた方がいいのでは。予算について等行政的な質問は答えられない。

【木村議長】 質疑応答の時に、生涯学習課長にも舞台上に上がってもらおうということをお願いする。文化部長が舞台に上がるという案もあるが。

【深野委員】 文化部長が存在する市町村は貴重だと思う。

【木村議長】 行政側として誰が舞台に上がるかは、事務局で調整をお願いする。

【齊藤委員】 先ほどの情報提供、情報共有の部分についての私からのアイデアである。参加者のみなさんは早く受付に来て、開会まで30分くらいウロウロする。そこにパネルがあり、すでに活動されている、市民のリーダー的な存在、例えばおだわら市民学校の2期生に立っていただいて、市民の声として、こういうことをしたと説明してもらえるようなものがあれば、相互作用がある。子どもの学びについても、有賀委員がいつもニューズレターを作ってくれている。使えるパネルの枚数の都合もあるので、何を選定するかという問題はあるが、受付後にウロウロしながら意見交換できるようなものがあるとよい。

また、会場で基調講演、人権講話などを聞いて、質問があれば、パッと渡せるような用紙を用意し、質問だけではなく、小田原市の取り組みのここがいいとか、ここは自分たちも取り入れたいなど応援してくれるメッセージを書いていただく。そういう工夫を取り入れれば、担当課としてやっている方にとっても励みになるし、相互作用の仕掛けをつくることができる。次に、まとめについて。最後のまとめは大事である。確認だが、社会教育の今日的課題として今回の研究会をまとめてくれるのは、木村議長ということでよいか。それは、最終的なまとめなのか、本日は来ていただきありがとうございますという労いを中心にするのか。まとめはなく、それぞれの参加者が心に残ったものを持ち帰ってもらうというのも一つの戦法として悪くないと思うが。

【木村議長】 ここで何かを解決して帰るといよりは、それぞれの参加者が心に残ったものを持ち帰り、自分たちで考えてもらう。先ほど深野委員が言ったように、他の市町村では観光が多いが、小田原はそうではなく、生涯学習事業やおだわら市民学校としていろいろなことをやっているというポスターやパネル掲示をし、その下にパンフレット等を置き、見てもらうのがよいのではと思っている。他市は最後に議長がまとめたが、質疑応答の後に改めてまとめるのはどうかと思っている。各自が心に残ったものを持って帰っていただき、自分の市町村の社会教育委員会議の中で、小田原はああだったこうだったと揉んでもらうのがいいのではと思っている。

【有賀委員】 前回の会議録にあったと思うが、最後に何かまとめを作って全体に串を通すという流れにした方がよいのではという意見があった。ただ、今回アトラクションもプログラムに入れることにしたので、時間的には難しいのかなと思う。

【木村議長】 どここの地区研究会でも質問は多く出るのか。

【有賀委員】 全く出なかったところもあった。時間いっぱい質問が出ることが研究会としては成功なのかなと思う。

【深野委員】 確かに前回の議事録に、木村議長がまとめると書かれている。

【笹井副議長】 提案であるが、抽象的な形で、地域づくりには人づくり・人材育成が必要ですよねというまとめでいいのではないかと思う。そこを一言言っていただき、あとは各地域の実情に応じて工夫して頑張ってくださいという形かなと思う。あまり細かいことを言うと、やり方に基準があるように受け取られる。

【木村議長】 閉会の言葉でまとめていただくのもよいのでは。

【深野委員】 閉会の言葉には入れないほうがよいのでは。

【木村議長】 では、質疑が出るか出ないかによって考えるということでしょうか。最終的なことは、8月の会議で調整したいと思う。

【深野委員】 小田原の社会教育委員は実務を持っている現役の方が多い。当日の出席もなかなか難しいと思う。実際に動ける人は少ない。かといって市役所の職員が

受付から何から全部行うのも難しい。そこで提案だが、例えばおだわら市民学校の一期生の実習として活用するというアイデアはないだろうか。おだわら市民学校のパネルの前には、市役所の職員が立つよりも、実際に昨年受講した方が立って説明するのが一番いいのではないか。そのような形でいろいろ応援をもらえないものか。研究会は主に社会教委員が行うが、もう少しオープンな形で、手伝ってもらえる人を集めるということではできないものか。

【木村議長】 今決めた司会等の他にも受付業務等、いろいろな役目がある。小田原駅から歩いてくる人の道案内もあるだろうし、その辺は行政側でサポートすることも可能であると聞いている。ホールに受付を設置したり、パネル展示するとしたら、準備は前日かその日の午前中か。

【生涯学習課長】 パネルの設置については、前日でも当日でもいかようにもなる。舞台転換等は事前のレッスンが必要であるので、それは経験のある行政でやってしまった方が早いと考える。したがって、委員のみなさんには主に、当日来てパッとやっていただけたところを、行政は事前に説明が必要なところやパネル展示等を行う。その中でやりくりのつかないところはおだわら市民学校の受講生にご協力いただき、その代りに本来は社会教育委員しか入れない地区研究会も見ていただけますという提案をすれば、ご協力いただけるかもしれない。もし人員が足りなければそこも含めて考えたい。

【深野委員】 社会教育委員は何をしているのかということを知っていただく意味でも、よい場だと思う。

【木村議長】 他市町村のやり方はわからないが、せっきあくおだわら市民学校の人材がいるのだから、それがもし可能なら、小田原の取組の一つとしてアピールになる。そういうことも考えて行きたい。本日の検討事項はこれで決まったので、あとは事務局で資料を作り、8月下旬ごろの次回会議で最終確認をしていきたい。事務局の方からも何かあるか。

(生涯学習課長より次回会議では、キャンパスおだわら事業の点検評価を行うこと、地区研究会については具体的な当日の役割分担等の整理を行うこと、各事例発表のガイドラインの共有をする予定であることを説明した。)

【木村議長】 それでは本日の会議はこれをもって閉会とさせていただきます。